

## 第5回 桜井市総合計画審議会 議事要旨

令和2年2月26日（水） 午後2時～

場所：西分庁舎 災害対策本部室

### 1. 開会

#### ○事務局

- ・これより、第5回桜井市総合計画審議会を開催させていただきます。

#### ○伊藤会長

- ・5回目の総合計画審議会である。今日も皆さんよろしくお願い致します。

### 2. 議事

#### (1) 将来都市像について事務局より説明を行った。

##### ○伊藤会長

- ・今説明があったが、一番意見が多かったのが3番目の「はじまりの地から未来へ歴史と自然がいきづく万葉のふるさと 桜井」である。下に意見をまとめている。1番目と2番目は「桜井」をつけなければどこでも一緒である。3番目は桜井の特徴がある。皆さんそのようなことを思われて選ばれたのだと思う。たくさん意見をいただいている。ここでも確認したいが、これは今日議論いただく個々の計画の中で反映していければと思う。
- ・今日この審議会ですべての将来都市像について決めたい。多数決で決める性格のものではないかもしれないが、多くの意見が3番ということであった。これでよろしいか。

(異議なし)

##### ○伊藤会長

- ・では3番に決定させていただきます。

#### (2) 戦略的プロジェクト（案）について事務局より説明を行った。

##### ○伊藤会長

- ・現在調整中ということで、抜けている視点や変更点についてご意見があればお願いする。

##### ○菅原委員

- ・地域包括ケア推進室と協議をやっている、公助は限界があるため、できれば自助もしくは自治会などの小規模な単位で協議体を作るようにと言われ、作る方向で動いている。自助・共助で支えるということが入っていないのではないか。

##### ○事務局

- ・基本目標4の福祉サービスの充実のところにある「地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制の構築」と「ボランティア等により提供される住民主体のサービスの充実」に包括されているという解釈である。

○伊藤会長

- ・他にはいかがか。
- ・基本目標 1 で、「農家」を追加されたということだが、新たな産業創出というのは農家だけなのか。

○事務局

- ・これは「NAFIC を中心とした賑わいづくり」にも関わってくる。NAFIC は県で設置をしている「なら食と農の魅力創造国際大学校」と連携して、一次産業、二次産業、三次産業をつなぐ六次産業をこれから連携を取りながら展開していくということである。今回「農家・企業への支援」と入れたのは、六次産業化を見据えていることである。

○伊藤会長

- ・いわゆる起業は別のところで考えるのか。

○事務局

- ・左側の一番上の部分、就業支援の充実及びしごとの創出の中で起業に対しても支援していくことを考えている。

○伊藤会長

- ・いろいろな分野の起業がある。最初に質問したことは NAFIC と関連して農家、農業に特化しているということか。

○事務局

- ・そうである。新たな産業創出として、市としては支援をしながら、連携を取りながら育成していきたいということである。

○伊藤会長

- ・他にいかがか。

○林委員

- ・全体を通してだが、基本目標 1 には IT、IOT 等、最新技術を入れていただいたが、ほかについても、国が Society5.0 ということで小学校の GIGA スクールなどいろいろな情報ツールを提供していこうとしている。トータルでの IT 戦略も含めて若干入れてもらったほうがよいのではないか。それが産業のところしかないので、何がしか考えていただきたい。

○事務局

- ・この後、本日そこまで説明が及ぶかどうかというところはあるが、基本計画というすべての分野にわたって施策ごとにまとめさせていただいた計画の案がある。その中でまだ足りない部分については、本日の審議会を含めて庁内でも点検させていただき、反映させていきたい。
- ・既に庁内では、国がオープンデータを活用するというので、市もこれから積極的に活用していきたいと思っている。そういったことも含めて本日いただいた意見については反映させていきたい。

○伊藤会長

- ・これで最終ではないので、いただいた意見も基本計画にてフィードバックする形で反映される可能性があると考えてよろしいと思う。
- ・後ほど改めて出てくるので、これについては以上としたい。

(3) 基本計画（案）について事務局より説明を行った。

○伊藤会長

- ・これから各施策を見ていくが、現状の施策がどうなっているかを分析すると課題が見えてくる。その課題に対してどういう取り組みをすれば解決に向かうかという関係性がこれである。
- ・例えば現状で“これが抜けているのではないか”とか、“この課題設定で間違いはないか”“この取り組み方針で課題解決につながるか”という指摘や質問はいかがか。まだ途中なので不十分なところがあるような気はするが。
- ・現状を知らないが、協働推進会議が設置されている。この中での議論はどこまで進んでいるのか。

○菅原委員

- ・自治会の会長として市民協働が一番つながりが深い。空き家・空き地問題になると、市民協働課のご協力を仰がないといけない。“この空き地は誰がお持ちなのか、草ぼうぼうで連絡できない”と言うと、土地の所有者については調べてはくれるが、そこへはがきを出すのが精いっぱいという状態で、協働課のほうで“うちはそれ以上できない”、お抱えの弁護士に聞いても“これ以上のことは市としてはできない”と切られてしまう。民有地なのでそれはそうなのだが、草ぼうぼうのまま放っておいていいのか。隣の税務課に固定資産税はどこから取っているのかと聞けば済む話である。それで土地の所有者はわかるのだが、税務課は教えてくれない。そこから先は“市民協働課ではできない”と言われる。
- ・自治会としてはそのまま放っておくわけにはいかないので、ボランティアで草刈りをしている。市民協働課は法律がない限り勝手に敷地に入って草刈りはできない。
- ・市民協働課のことを書かれているが、“こうしたらいいのではないか”“ああしたらいいのではないか”という具体的なところが進んでいないような気がする。

○伊藤会長

- ・方針はわかる。「交流を促進する」「支援する」とあるが、具体的にどうするのか。

○河合委員

- ・所有権があるので進まない。個人の資産なので難しいところがある。

○菅原委員

- ・条例を作っただけだと一番ありがたい。税務課は固定資産税を取っているはずである。

○伊藤会長

- ・所有者がわからなくなっている物件もある。危険家屋については対応できるが、そこまで行かない空き家には動物が住みついていることがある。
- ・今は自治会で協力的な方がいらっしゃるのでよいが、自治会自体の活動がだんだん低下している問題もある。

○菅原委員

- ・よく市長が高齢化率 30 何%とおっしゃっているが、朝倉台は 45%を超えている。それでも 70 代のシニアで何とか地域のために動いてくれている人が今 100 名近くいる。ありがたい話である。これから先もそれを続けていけるようにしたいと思っている。

○河合委員

- ・別の条例を作るとよいのではないか。

○大園委員

- ・桜井市にまちづくり条例はない。

○菅原委員

- ・環境事業部は、刈った草の引き取りは有料だと言う。市が対応できないものを、ボランティアで刈ったのに、“軽トラに載せて持ってきてもらえれば、有料で処分する”ということである。

○伊藤会長

- ・現実的な問題はいろいろある。ここでは協働推進したり地域活動を支援するときに出る問題に、どのように取り組んでいけばいいかということをおこなう中でうたって、それを進めていく仕組みを作ってほしいということである。

○菅原委員

- ・もう少し仕組みを押し進めてほしい。答えを住民に言ったら、そこで終わってしまったのが現状である。

○河合委員

- ・推進協働課も一生懸命やっている。そういうことは条例を作るとか法律を作らなければいけない。

○事務局

- ・確かに最近は市民協働という概念で行政施策をやらせていただいている。これは続けていかなければならない。今までは行政がすべての部分を担っており、地元から要望があれば行政が出ていって解決するという状況だったのだが、今やお金の問題も含めてそういう状況ではなくなってきた。地域で支え合ってもらいたいということも住民の方には災害を通じてわかってきていただいている。今、市のほうでも、概念的なものであるが協働推進の指針を作らせていただいている。これに基づいていろいろな団体が動いていただいているが、地域によって一律に行っていない部分もある。

- ・朝倉台は非常に住民の方が一生懸命になっていただいて、モデル的な事業をやっている。これは計画の中でも誇れる取り組みではないかと思う。
- ・一方で、山間に行くと限界集落ということで、地元で草刈りなどもできなくなってきており、村を自分たちの力で維持できない状態が出てきている。これらを1つの物差しで括らず、必要に応じていろいろなパターンを考えてやっていかないといけないと思っている。
- ・空き家・空き地管理の問題については、行政としても限界がある。そこは地元の皆さんとうまく協働しながら住民の方にやってもらう部分もあると思う。この辺の整理は今後、6次総合計画の中で具体的に作り込んでいくことも必要になってくる。貴重なご意見をいただいた。

○伊藤会長

- ・広域行政、行政経営の適正化、効率的な行財政運営については行政のやれる仕事であるが、市民との関わりで言うと情報共有である。最近防災の情報がきちんと伝わらないという問題がある。市民と行政の間の情報共有、情報伝達、発信の仕組みはこれからどんどん重要になってくると思う。そのあたりで気になることはあるか。

○菅原委員

- ・そのところは4年前に自治会長だったときに懸念していた。住民が市に対してどんなイメージを持っているかという、何かあったら市に言ったらやってくれる、そういう意識を皆さん持っていた。今はそんな時代ではない。自分たちでできるところはやるといって形に持っていかなければいけない。市は確かに「わかざくら」や「県政奈良」で発信してくれているが、読んでいない方も結構おられる。どうしたらいいのか。
- ・朝倉台はホームページを作った。そのホームページで市のいろいろなことを載せている。新しいハザードマップができたとか、逐次発信している。

○伊藤会長

- ・いい取り組みだと思う。なかなか一般の市民が市のホームページを見て情報を得ることはない。

○菅原委員

- ・最近の方はスマホを持っているので、スマホで見られるような発信をしている。パソコンがなくても、おばあちゃんでも大概スマホを見ている。

○伊藤会長

- ・ホームページもあるし、SNSもある。市民生活に関する情報、子育てなどの情報にアクセスできる仕組みは、各自治体でいろいろなことをやっているが、そういうことがここでの課題であり、取り組まなければならない内容になるということである。
- ・行政は各課がそれぞれやっているのか。

○事務局

- ・ホームページの更新については担当が適宜新しい情報を上げて反映することを1つの取り組みとしてやっている。
- ・もう1つは、各課から特にお知らせしたい事項については、ひみこちゃんツイッターということで各種情報を上げている。庁内でこれ以外のSNS活用の検討を進めている状況である。選択肢をこれからどのように増やしていくのかということが1つの課題になってくると考えている。

○菅原委員

- ・安心安全のメールは評判がよい。詐欺のメールが来たとか、電話が来たとか、皆さん喜んでいいる。

○伊藤会長

- ・ここに書いてある内容でほぼカバーできていると思うが、まだ途中なので、もしお気づきの点があれば事務局に連絡いただきたい。

○福本委員

- ・5番の「効率的な行財政運営の推進」の現状の「公共施設の再編配置方針」だが、具体的には難しいと思うが、学校、幼稚園、支所も含め、これから5年間の間にどういうものを縮小して、どういうものは充実させていくのか、大まかな形で聞かせていただくとイメージが湧く。また、自前で運営できるものと指定管理とで市民サービスに多少差が出てくるのではないかと。人口減少や財政事情で難しいことは十分わかるが、この辺のところを市民としては危惧するところである。

○事務局

- ・公共施設の適正管理という部分では、FM（ファシリティマネジメント）ということで、“自治体の中で市民1人当たりの公共施設の面積はどれぐらいか”という全国の平均が出ています。桜井市はほかの自治体に比べて公共施設の面積が多い。40年で3割ぐらい減らすということが目標で出ている。
- ・今まではハコモノ行政で、市民会館から何から競うように建てた時代があった。それが老朽化して耐震化の問題が出てきている。これからは“お互いに広域で使い合い、適正な施設管理をしよう”ということでやらせていただいている。
- ・特に今、義務教育施設の学校、就学前の幼稚園・保育所の関係施設をどうしていくべきかが問題になってきている。子どもがどんどん減ってきており、学校の規模をどうするか。教育的な効果のある学校の適正規模は1学年に2学級以上なければいけないということが文科省から出ているが、桜井市の現状を見ると、初瀬・朝倉・三輪・纏向・織田は1学年1学級になってきている。小中学校の適正配置の基本方針だけは立てたが、これから校区ごとにどうカバーしていくのか。どれぐらいの規模の学校をどのように再編するかというのは具体的なイメージとしては湧くわけだが、小学校というものはその地域のコミュニティの場でもあるので、適正な規模であるというだけで括ってしまうのは難しい面もある。これまでの歴

史もあるので、地元とも十分論議して、一定の方向を出そうと思っている。

- ・幼稚園・保育所については義務教育ではないので、施設整備についての国の補助はあまり出ない。これから民間の方へスライドしていくことが文科省・厚労省の考え方である。幼稚園よりも保育をしてほしいという保護者が多いので、認定こども園という形に移行し、これを民間に委ねていくことを考えないと、市で全部カバーすることは無理がある。一定の基本方針は出させていただいている。
- ・いろいろな施設があるが、耐震化ができていない大きな施設がある。これはメンテナンスも含めて、耐震化をやろうとすると非常に大きなお金がかかってくる。国庫補助などは全然ない。今ある施設をうまくどう使うかということと、近隣市町村との連携の中でお互いに使い合いすることも含めて広域化という視点で行かないと、桜井市は桜井市、天理市は天理市、橿原市は橿原市でそれぞれ持つ時代ではないと考えている。
- ・指定管理の話だが、施設の管理運営については直接市がしなければならないところと、民間に任せるところがある。これは将来のコストを抑えつつ、民間のノウハウをうまく利用して、今やっているところも含めて今後も続けていきたいと思っている。

#### ○福本委員

- ・気になっているのは、幼稚園が減って、保育所は維持している。公立の幼稚園を統合してどうのこうののではなく、認定こども園という方向性で桜井市は行こうとするのか。保育所は維持して幼稚園は民間に行くという方向性を取るのか、こども園として市として持っていくのか。幼稚園は民間に移行していくところが多かった。桜井市の場合はどうなのか。

#### ○事務局

- ・基本的には、国が就学前の教育については無償化という方針を出したため、公立でやっているところについては国の援助は少ない。今まで桜井市は“就学前の教育について、よその市に比べて充実している”ということで評価を得てきたが、それに対する財政的な負担が大きくなってきたため、保育所は民間に委ねることとなった。民間にすると評判が悪いのではないかとみんな思っていたが、非常に評判がよい。今、市としては、障害などの問題を抱えている子どもさんについては私立は受けたがらない状況があるので、その辺は公立で担う部分があつてよいのではないかと考えている。
- ・幼稚園の施設整備をすることになると適正規模が出てくる。今ある桜井市の公立幼稚園は子どもの数が減ってきており、3歳まで年齢を下げても保育時間が短いので希望者はあまりおられない。今後は認定こども園に移行して、通園方法は考える必要はあると思うが施設の数を少なくすることも視野に入れながら、できれば公立はいくつか残して民間に委ねていくという形にしないといけないのではないか。今のところ財政的な問題も含めて考えているところである。

○伊藤会長

- ・今のご意見、ご質問で、5 番目の現状と課題には公共施設云々が書いてあるが、取り組み方針の中に書いていない。適正配置と耐震化、更新の問題、官民の役割分担を今後の取り組み方針の中に入れてほしい。

○事務局

- ・反映させていただく。

○事務局

- ・資料説明（桜井の個性を活かした活力あるまち）

○伊藤会長

- ・いかがだろうか。

○大園委員

- ・外国人労働者の受け入れが今後必要になるということで、これは国を挙げて 50 万人入ってきていただいていると思う。それ以前に、日本の中には在宅の引きこもりの方もいらっしゃる。それをいろいろな民間の NPO 法人が何らかの形で、社会福祉協議会が中心になっているかもしれないが、手当てをして、社会の中で働いていただく。農福連携で農業とつなぐこともある。手っ取り早く外国人の方を国の補助が出るから入れてやろうということだけでなく、地元にいる人材をどのように活用していくか。いろいろな地域でお考えになっているが、実際に取り組まれているところもあるので、桜井市がどういう方向を向いていくかということも入れていただきたい。

○事務局

- ・これから労働者が不足していくという中で、自国民であるそういった方々も含めた就労の機会というのは多様化をしていかなければならないと考えている。担当課にフィードバックさせていただき、事例も収集させていただきながら方針として検討したい。

○伊藤会長

- ・今のところの取り組み方針の 2 つ目で、「現状と課題を把握し」とあるが、もう把握している。むしろ地域の実情に合った労働行政の市としての取り組みに努めるとしてはどうか。

○事務局

- ・記載は改めさせていただきたいが、各種統計調査の結果から、これについては主には分析という意味合いになるので、記載内容は検討させていただく。

○伊藤会長

- ・例えば桜井市内の男性女性別雇用状況データがあるのであれば、エビデンスに基づいて対応を考えていくということだと思う。
- ・桜井市は企業誘致により立地した企業が既にあるのか。

○事務局

- ・最近では、ルートインがオープンした際に、雇用に関して条例規則を設けて、地元の方を雇用した際には各種の補助を行うという取り組みをしているという事例を聞いている。

○福本委員

- ・「1-1 観光の振興」で、将来都市像に「歴史と自然がいきづく万葉のふるさと」という文言が記載されている。これをどう桜井としてPRしていくかとなると、歴史的な遺産をどうアピールするのにかかってくる。奈良市や京都市など地上に神社仏閣、歴史文化資産があるところは観光客が誘致しやすい。滞在して、歩いてくれるし、宿泊もしてくれるかもしれない。ただ、桜井市の場合は全部地下である。古墳もあるが、PRとしてはなかなか難しいイメージを地域の人は持っている。私の知り合いが兵庫にいるが、桜井が万葉のふるさとというイメージは持っていない。大神神社と三輪そうめんというイメージがある。産業は、昔は材木だったが、今は衰退している。桜井市は周辺からの印象が非常に薄い。どうアピールするかがこれから5年のプロジェクトの中で大きな課題ではないか。
- ・「観光客の滞在時間の長期化を目指す」とあるが、長期化というのは宿泊施設を指しているのか。桜井は少ないので、今後長期化を目指すためにどういうものをするのかイメージが湧いてこない。受け入れ体制の整備ということがあるので、施設の民間活力を投入しなければ維持できないだろう。三輪から少し北のほうに行くと斜面から見る奈良盆地は素晴らしい。歴史風致地区や、埋蔵文化財の関わりがあるのでそう簡単にはいかないが、あの辺の中腹に箸墓古墳近辺の歴史資産とタイアップしながらリゾート施設が開発できれば人は来るだろう。滞在は最低2泊ぐらいしてくれるだろう。滞在してもらわなければ金が落ちない。ハイカーは桜井駅で降りて歩いてどこかへ行くだけで、お金を落としてくれるところがない。
- ・人の流れを作るためには、談山神社や長谷寺、大神神社などとタイアップした観光をPRしながら歴史と自然の遺産をアピールしていく、そういう形にしていかなければ、恐らく長期間滞在してもらうのは不可能ではないか。

○林委員

- ・観光協会として回答する。
- ・三輪そうめんのPRの話があったが、桜井市は特産品として三輪そうめんを普及させようということで地域の方も総出になり一昨年からPRしている。三輪の参道で流しそうめんの店を出していただいている加藤さんは「三輪そうめんと観光」ということでかなり力を入れてくれている。そうめんのPRは民間の方が一生懸命になってくれている。
- ・滞在型の観光については、私も一番悩んでいるのが日帰り観光ばかりで、それをどうするか。ルートインが今度開設されたので、ルートインをうまく使わせていただき、2日間のイベントということでやらせていただいている。今古墳ファン

が多くなり、1回やると全国から100人ぐらい来ていただける。1日目に机上の講義を行い、2日目に現地に行ってもらおうというイベントをすれば必ずルートインに泊まってもらえる。今までは旅館が少なかったので日帰りのお客さんをターゲットにしていた。観光協会としては泊まるイベントをしっかりと作ってお金を落としてもらおうということで考えている。

#### ○事務局

- ・今確かに桜井市は産業観光創造都市を目指している。一級品はいくらでもある。長谷寺、談山神社、大神神社、これは1つの市に1つあっても十分だということだが、大きなものがたくさんありすぎて、どれに絞ってという戦略が取り切れていない部分もある。
- ・県とまちづくり協定を結び、長谷寺は長谷寺の門前町のことをやっている。大神神社も県道整備を県でやってくれている。おかげ横丁のミニ版を作ろうということで、まちづくり会社を組織しようと動きかけている。談山神社もいろいろ力を入れてくれている。
- ・一方では、「飛鳥・藤原」世界文化遺産の登録を目指して本格的にやろうと、関係市町村が集まって具体的に動き出した。
- ・今回天理市と桜井市でそうめんに絞って日本遺産の挑戦をして、申請を出している。この夏までには結論が出ると思う。
- ・泊まっていたら観光ということになると、観光の商品開発が重要な鍵を握っている。関東で宣伝をやると関西のほうへ来ていただけるということは今まで実証済みである。商品開発と関東で力を入れて情報発信することが1つの手ではないか。
- ・情報発信という面では、インバウンドに向けてもうまくやらなければならない。インバウンドを対象にフランス語と英語と中国語で情報発信をしており、評判はよいのだが、それが桜井市の観光と結びつき切れていない部分がある。
- ・山の辺の道もハイカーでいっぱい、日帰りの健康志向の方が多い。うまくお金を落とさせていただけると一番よい。そのような仕掛けづくりをすべきではないか。
- ・地下に埋まっている纏向の問題を抜きに考えることはできない。莫大なお金がかかってくると思うので、国や県の力も借りないと、市単独でできるようなものではない。大きなプロジェクトになるので、すぐには手をつけられない。ここ5年の間は庁舎を建てているので本格的にできないが、それが過ぎたころには一定の方向も出していきたいと考えている。これが現状である。

#### ○福本委員

- ・いかにあるものを使って、歴史遺産と自然遺産を加味しながら滞在してくれるイベントを実施し、どう情報発信をしていくかがこれからは大切。
- ・たまたま僕の知っている人が桜井に対してのイメージがあまりなかったのでショックを受けた。記紀万葉のふるさとと言われる桜井であるが、関心のある人は関

心があるが、情報発信がまだまだ届いていない部分があるのではないか。

- ・私たちは目に見えるものには関心が向くが、地下にあるものには関心が少ない。桜井としては不利な部分がある。

#### ○林委員

- ・PR の関係をご指摘いただいたが、2 点つけ加える。JR 西日本とタイアップして今年の 3 月から 6 月まで「ちょこっと関西、奈良桜井」で、桜井を全面的に出していただいて PR する。3 月に市長、副市長に参加していただくと思うが、安倍文殊院で発車式を大々的にやる。JR が桜井市を PR してくれるということで進んでいる。
- ・もう 1 点は、三輪そうめんもちろんそうだが、三輪そうめんと出雲そば、琴平のうどん、この 3 麺の献麺式を 5 年前からやっている。今年の担当は桜井市で、5 月 23 日（土）に行く。琴平からも出雲からも前の日から来てもらって泊まっていた。そういう面ではルートインができたということに関しては我々も PR しやすい。

#### ○伊藤会長

- ・いろいろご意見や情報をいただいた。現状、課題、取り組み方針はポイントだけ押さえているので、いただいたご意見は具体的な事業のほうで反映されることになる。
- ・まだ分野は残っているが、今日全部はできない。今日は 2 つの分野についてご意見をいただいた。また気づかれたことがあれば事務局まで連絡いただきたい。
- ・次回は残りの部分についてご意見をいただき、計画に反映していく方向でやっていく。

### 3. その他

#### ○事務局

- ・今年度の総合計画審議会は本日が最終になる。来年度、完成に向けてラストスパートということで、9 月議会に上程していく。
- ・総合計画審議会については 3 回程度の開催を予定している。来年度の 1 回目は 4 月下旬から 5 月上旬で開催したいと考えている。案件については、基本計画の施策調書の今日説明できなかった残りについてご説明させていただきたい。施策については専門的な知識をお持ちの分野もあると思う。特に関心の高い分野もあると思う。次回以降の審議会でご意見をいただきたい。

#### ○伊藤会長

- ・次回は 4 月から 5 月ということで、時間がある。事前に読まれてお気づきの点があればまだ説明されていない分野でも結構なので、ご意見をいただければ次回の審議ももっと深められると思う。よろしく願います。